



《2020年1月14日、Windows 7 延長サポート終了》 チェックリストで分析する、 企業等の Windows 10 移行状況

移行完了していない企業の課題と、タイムリミットに遅れないための行動とは？

調査期間

2018年12月12日～13日

対象者

全国の従業員数100名以上の企業・団体・自治体等にお勤めの方600名

調査実施機関

株式会社プリンシプル

調査方法

インターネットリサーチ

※全国の情報システム担当者2,411名にOSに関する事前調査を実施。
条件に合致する600名を無作為に選出し本調査を実施しました。



Windows 10移行状況と課題をIS部門の2411名に調査

2020年1月14日のWindows 7延長サポート終了が目前に迫ってきたことを受け、Windows 10への移行を急ぐ企業が増加しています。延長サポート終了後は、Windows 7に脆弱性が発見されても修正プログラムが提供されず、マイクロソフトへの問い合わせも基本的には対応してもらえなくなるため、現在もWindows 7を利用している企業にとっては、Windows 7延長サポート終了までにWindows 10への移行を完了することが急務となっています。

Dynabook株式会社では、Windows 10移行を成功させる上で、IS部門担当者が留意すべきポイントを洗い出したチェックリストを作成しています。これは、Windows 10への移行をスムーズに進めるだけでなく、移行後の運用まで含めた計画を確認するためのものです。今回このチェックリストをベースに、社員数100名以上の規模を持つ日本企業の情報システム担当者2411名に対し、Windows 10への移行に関するWeb調査を実施しました。まず、Windows 10への移行が完了しているかどうかを問い、完了していない600名に対しては、現在の移行状況や移行に伴う課題などを調査しました。

なお、調査に用いたチェックリストは本ホワイトペーパーの最後に掲載しています。Windows 10への移行を漏れなく着実に進めるために、活用していただければ幸いです。

Windows 7延長サポート終了まで、残すところ1年。 まだ移行計画立案段階の企業も

2411名を対象にしたアンケートでは「主に使用するOS」として「Windows 10」を挙げた企業は6割を超えました。残りのうち、10.3%がWindows 8、27.3%がWindows 7、それ以外のWindowsが0.7%という結果になりました（図1）。

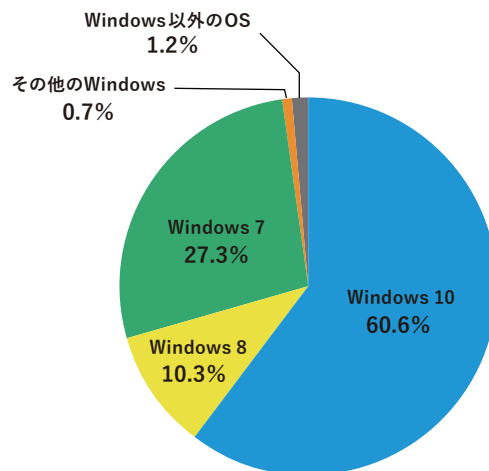


図1 オフィスで主に使用しているOSの割合

では、Windows 10への移行が完了していない企業の現在の状況や課題はどのようなものでしょうか。

調査の結果、600名のうち38%がWindows 10への「移行中」と回答したのに対し、45%は「計画立案中」ととどまっていることがわかりました（図2）。まだ移行計画が完成しておらず、実際の移行に取り掛かれていない企業が少なからず存在していることになります。

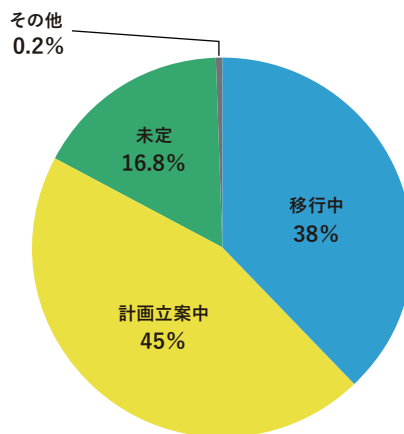


図2 オフィスで主に使用しているWindows 10への移行について現在の状況を選択してください。

「Windows 7サポート終了までに移行を終える」予定の企業等は96%

続けて行った移行完了時期に関する質問では、31%が「半年以内」、65.3%が「Windows 7 延長サポート終了まで」にWindows 10へ移行を完了すると回答しています(図3)。両方合わせると96.3%がWindows 7のサポートが残っているうちに移行を終わらせる計画を立てています。フリー回答の中には「上司の理解が得られるまで」など、社内の説得に苦慮していることが窺われる回答もありました。

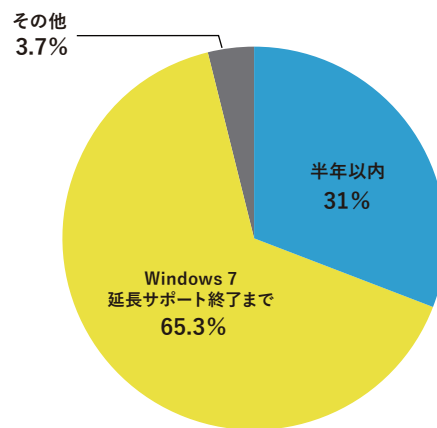


図3 Windows 10の移行完了時期の目安はいつでしょうか。

調査によって、Windows 7の延長サポート終了間際に移行を終わらせる計画の企業が多いことが見えてきましたが、懸念されるのは、移行にかかわるエンジニアの数です。Windows XPのサポート終了からWindows 7への移行の際も、Windows XPのサポート終了間際になってから移行作業を外部業者に依頼するケースが少なからず見受けられました。あまりに需要が集中したためエンジニアの数が不足し、Windows XPの延長サポート終了後にWindows 7に移行を終えた企業もありました。Windows 7の延長サポート終了まで残りわずかの期間しかありません。Windows 10への移行ではもはや猶予なしと考え、1日も早い移行開始が望ましいといえます。

Windows 10移行の問題は、「使用しているソフトの対応」と「運用管理」が大きい

Windows 10 への移行でどのような問題を抱えているかについて聞いた質問では、もっとも多い回答が「使用しているソフトの対応」(62.7%)で、ついで「移行後の運用管理」(42.7%)が挙げられました(図4)。フリー回答でも、「社内システムの対応」「アプリの検証」「既存アプリや設備への影響把握に多大な時間を要す」と、これまで使用してきた社内システムやアプリケーション、設備が Windows 10 に対応しているかの検証にかかる負担の高さを挙げる回答が数多く挙がっています。

続いて3位が「人員不足」(24.7%)、4位が「展開方法」(22.5%)と回答しています。フリー回答(3.2%)でもっとも多かった回答は「予算」でした。また、「習熟方法」「使用する人の対応度」など、バージョンアップに伴う操作方法の違いによるエンドユーザーの戸惑いを懸念する回答や、「Windows Update」など都度更新プログラムによって最新のOSに進化する Windows 10 の仕組みについて心配する回答もありました。

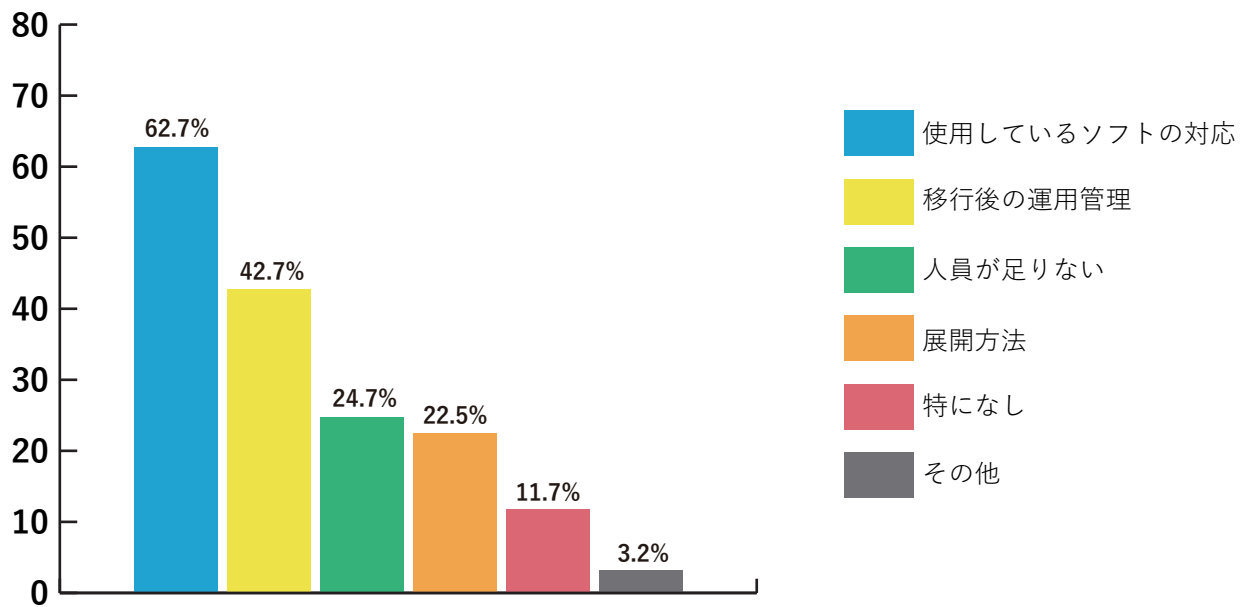


図4 Windows 10 への移行ではどのような問題を抱えていますか。(いくつでも)

アプリケーションやITシステムのWindows 10対応確認が遅れている

Windows 10 への移行にあたっては、現在のクライアント PC やアプリケーション、業務システム、周辺機器が Windows 10 へ対応しているかを把握する事が不可欠です。アンケートでは、Windows 10 への対応を確認済みの方が 77.5%と大半でしたが、確認できていないという回答も 22.5%もありました。

Windows 10 への対応状況が分からないと、Windows 10 への移行に伴い、新規 PC の買い替えが必要か、既存の PC の OS のバージョンアップで済むのかの判断ができず、予算確保にも支障が生じます。Windows 10 への移行に早めに着手するためにも、Windows 10 へ対応しているか確認が済んでいない企業は早急に対応状況を確認する必要がありますといえます。

さらにエンドユーザーが使っているアプリケーションを IS 部門が把握しているか否かの質問では、把握できていないという回答が 26.2%でした。社内の調査を行い IS 部門が管理できるようエンドユーザーが使用するアプリケーションについても確認を行うことをお勧めします。

一方、自社で独自開発することの多い IT システムは、IS 部門、もしくは開発したベンダーによって、Windows 10 に移行する際に、動作に支障が出ないかの検証が必要となります。アンケートでは、「すべて検証している」が 14.5%に過ぎず、もっとも多い回答が「検証していないものがある」(65.3%) でした。「調査していないのでわからない」(15.0%)、「まったく検証していない」(5.2%) と検証に手が回っていない企業等も少なからずあり、Windows 10 移行時に IT システムの動作に支障がでないか懸念されます (図 5)。

Windows 10 へ移行した際に、IT システムの動作に支障がでる場合は、期間とコストをかけて改修するか、別の IT システムに乗り換えるなどの対応が求められます。検証には時間がかかる場合がありますので、IT システムの検証が済んでいない企業は早めに検証を実施することをお勧めします。

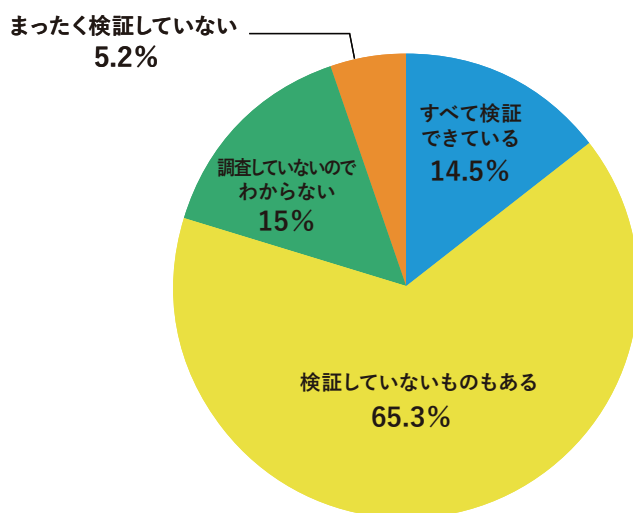


図 5 IT システムが Windows 10 で動作するか検証できていますか。

また、セキュリティソフトやクライアント PC の管理ツールは、Windows のバージョンアップの影響により動作に支障がでることが少なくありません。これらのソフトウェアの Windows 10 への対応状況に関する質問では、「すべて対応している」が 29.8%に過ぎず、「対応していないものがある」が半数、「すべて対応していない」も比較的少数ながら 3.2%という結果でした（図 6）。

仮に対応していたとしても、Windows 10 移行後も思わぬところで管理や運用の負荷が高まることもあります。例えば、ディスク暗号化ツールでは、暗号化の機能自体は Windows 10 に対応していても、「機能更新プログラム適用の際に、いったん暗号化を解除（復号）し、適用後に改めて暗号化を施す必要がある」ものもあります。機能更新プログラムの適用の際に、復号が必要な暗号化ツールは、手間と作業時間が必要となります。復号せずに機能更新プログラムを適用できる、優れたディスク暗号化ツールが存在しますが、それをご存じですかと問う質問では、「いいえ」の回答が 68.5%に達していました（図 7）。自社に適したセキュリティソフトや、PC の管理ツールの選定は時間がかかる場合があるため、しっかり吟味することをお勧めします。

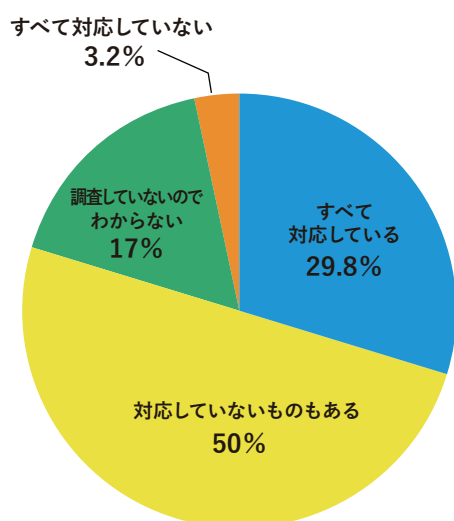


図 6 導入しているセキュリティソフト・クライアント PC 管理ツールなどは Windows 10 に対応していますか。

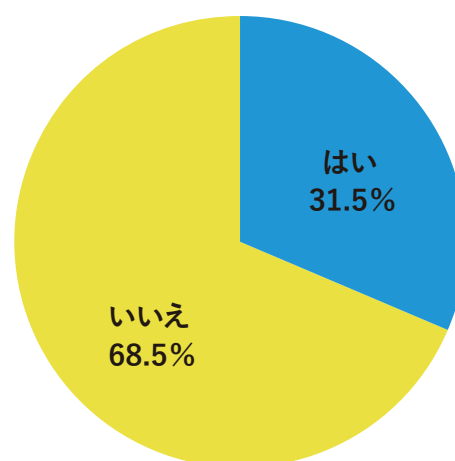


図 7 復号せずに Windows 10 のアップデートができる暗号化ソフトをご存じですか。

Windows 10で新たに導入されたWindows as a Serviceの理解が遅れている

Windows 10では運用管理の仕組みが大幅に変わります。それにより、IS部門が理解しておくべき事柄も変わります。特に大きな変化はWindows as a Serviceです。Windows as a Serviceとは、サービスとして提供するWindowsというコンセプトで、Windowsを継続的に進化させていくという考え方です。これまでは機能を大幅に向上させるときは、OSのバージョンアップという形で提供されてきましたが、Windows as a Serviceでは、年に2回提供される機能更新プログラムでWindows 10が進化していくことになります。

このWindows as a Serviceに対する理解度について聞いた質問では、「よく理解できている」(13.3%)、「ほぼ理解できている」(42.0%)という回答が多く、このコンセプトが浸透してきたことがわかります。

ただその一方で、「あまり理解できていない」(34.0%)、「知らない」(10.7%)と、4割以上の情報システム担当者がWindows as a Serviceの理解不足を自覚しています(図8)。Windows 10移行後の運用を考えると、Windows as a Serviceに対する理解度の低さは不安材料と言えます。

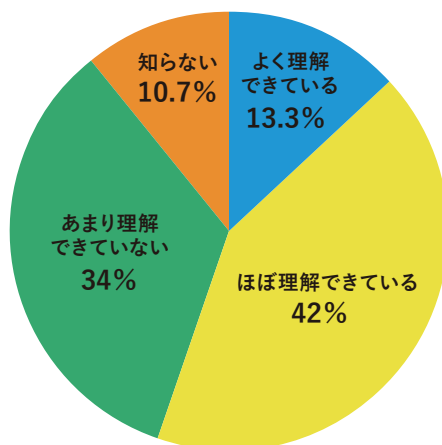


図8 Windows 10はWindows as a Service (Windows as a Service)という考え方で設計されています。このWindows as a Serviceの概要について理解できていますか。

Windows as a Service で配信される機能更新プログラムは、数ギガバイトという大きなファイルになります。機能更新プログラムがすべてのクライアント PC でダウンロードされると、ネットワーク帯域に大きな負荷を与えるでしょう。そのため、ネットワークの負荷に影響を与えない更新プログラムの配信管理方法を決めること、場合によっては十分なネットワーク帯域の確保のためネットワークの増強も必要となります。配信管理基盤は、Active Directory と Microsoft Intune での管理や、Windows Server Update Service(WSUS)、System Center Configuration Manager(SCCM)、Windows Update for Business(WUfB) などさまざまな配信管理基盤があるため、何が適しているかを決定し運用する必要があります。

このように、Windows as a Service で Windows 10 のアップデートを行う際には、配信方法やタイミングを管理する必要があるのですが、その必要性の認識に関する質問では、33.7%が「知らない」と回答しています（図9）。機能更新プログラムの配信管理方法を考慮しないまま移行を進めると、Windows 10 移行後に業務に支障がでる可能性があります。

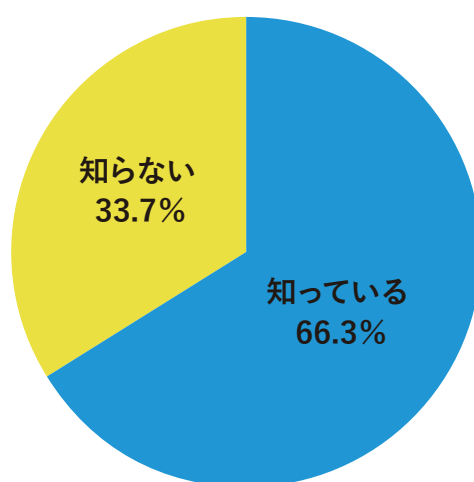


図9 Windows 10 の更新プログラムは、配信方法やタイミングなどを管理する必要があることを知っていますか。

Windows as a Service では、もう一つ、検証の体制も整備する必要があります。年2回の機能更新プログラムでは機能が追加、変更されるため、アプリケーションや IT システムの対応を検証しなくてはならないからです。しかし、その事実を「知らない」という回答も 40%に達しています。

Windows 10への移行は、アップグレードよりリプレースが中心

Windows 10への移行には、クライアントPCのリプレース（買い替え）と、既存PCをアップグレードするという2つの選択肢があります。アンケートでは「PCのリプレース」（40.2%）、「現行PCのOSアップグレード」（29.2%）と、リプレースの比率が高くなっています。リプレースとアップグレードの併用も合計24%あり、「併用するがリプレースのほうが多い」という回答が多く、Windows 10への移行では、クライアントPCのリプレースを選択する企業が多い傾向と言えます（図10）。

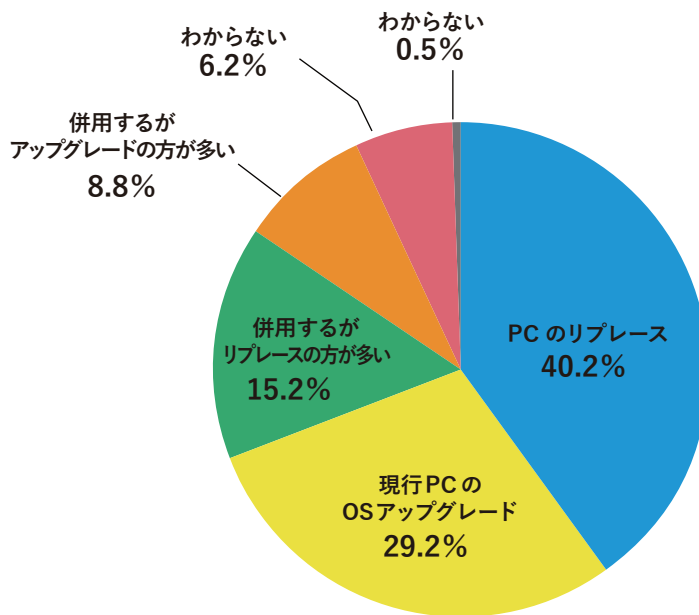


図10 Windows 10へ移行する場合は、PCのリプレースと現行PCのOSアップグレードのどちらで対応予定ですか。

クライアントPCのリプレースでもアップグレードでも、既存PCからの環境（設定・データ）の移行は必要です。この環境の移行作業は、クライアントPC1台ごとに行う必要があり、時間や手間がかかります。移行作業はデータの量、PCの性能にも影響するため、企業ごとに異なり、実際に検証してみないとどれだけの時間がかかるのか予測が付きません。

データ移行方法やアップグレードにかかる時間について把握しているかどうかという質問では、「はい」（56.2%）、「いいえ」（40.8%）と、把握していない企業が4割を超えていました。Windows 7の延長サポート終了に間に合わせるためにも、早急に検証し移行作業に必要な時間や手間を把握しておくことをお勧めします。

アウトソーシングのサービスの活用で移行を迅速、かつ確実に

Windows 10 への移行を、自社の IS 部門だけですべて対応することも可能ですが、大量のクライアント PC の Windows 10 への移行作業は多くの人手と長い時間を費やすことになります。IS 部門は、IS 部門にしかできない付加価値の高い業務を行い、Windows 10 への移行は、効率のよいアウトソーシングサービスを利用することも有望な選択肢になり得ます。

ところが、「Windows 10 移行から調達・キッティング・保守・撤去まで IS 部門を支援するサービスを知っていますか」という質問には「いいえ」(60.3%) の回答が多く、アウトソーシングサービスの認知が浸透していないことがうかがえます (図 11)。

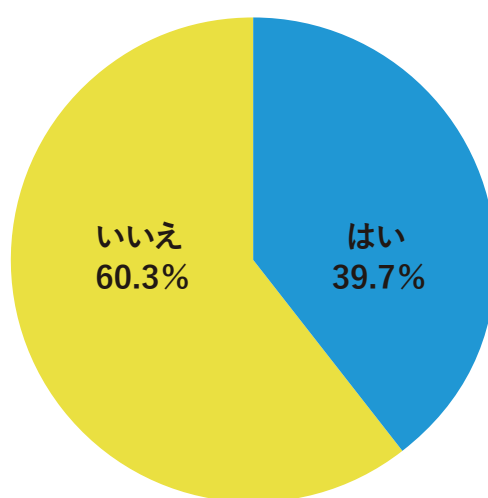


図 11 Windows 10 移行から調達・キッティング・保守・撤去まで IS 部門を支援するサービスを知っていますか。

たとえば Dynabook 株式会社では、既存 PC から新規 PC に環境 (設定・データ) を確実に短時間で移行する「Windows 10 リプレース支援サービス」、既存 PC のデータを残したまま、Windows を短時間かつ確実にアップグレードする「Windows 10 アップグレードサービス」を提供しています。このサービスは他社製 PC も利用可能です。

Dynabook 株式会社のエンジニアが、訪問し移行やアップグレード作業を行うので、IS 部門の手間を大幅に軽減できます。

Windows 10 は、Windows as a Service で常に進化していきます。

つまり Windows 10 の移行計画から導入まで、常に進化する Windows 10 の最新情報を入手しつづける必要があるのです。このため、進化する Windows 10 の最新情報を追いつけ試行錯誤しながら計画、検証、運用を進めて行く事は非効率であり、現実的とは言えません。

Dynabook 株式会社では、Windows 10 移行について、ノウハウを持った Dynabook 株式会社のエンジニアが必要な機材を用意し、Windows as a Service の説明、計画時に注意すべき事項を示し、お客様の PC 環境やインフラ状況に応じ最適な機能更新プログラムの配信管理基盤を提案することで、お客様が運用まで見通した Windows as a Service の運用管理方針を決定できるワークショップ形式のサービスを提供しています。

しかし、まだ認知が浅く、「Windows 10 の移行検証に必要な機材をベンダー側で用意し、ワークショップで質疑応答できるサービスを知っていますか」という質問には、「いいえ」の回答が 58.7%と高い比率でした（図 12）。こうしたサービスを賢く活用することも、Windows 10 移行を迅速に進める上で有益と言えるでしょう。

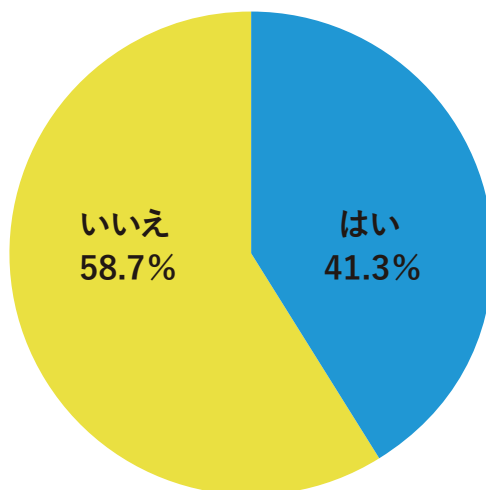


図 12 Windows 10 の移行検証に必要な機材をベンダー側で用意し、ワークショップで質疑応答できるサービスを知っていますか。

2020年1月のWindows 7延長サポート終了までに、 Windows 10への移行を確実に完了するために

今回の調査では、既に Windows 10 の利用を始めている企業等が 6 割に達するなど、Windows 10 への移行が着実に進んでいることが見えてきました。

また Windows 10 への移行が進んでいない企業でも、ほとんどが「Windows 7 の延長サポート終了」までに移行を終わらせたいと考えていることがわかりました。

Windows 10 への移行は多くの手間と時間が必要です。

社内の IS 部門のリソースだけでは Windows 7 の延長サポート終了までに移行を完了できない場合もあります。現在、Windows 10 移行を支援するさまざまなアウトソーシングサービスが市場に出ています。それらを比較し、自社にマッチするものを賢く利用すれば、大量のクライアント PC の Windows 10 への移行であっても、IS 部門の負担を軽減しながら、効率よく進めることができます。

既にカウントダウンは始まっています。関心のあるサービスがあれば、1 日も早く、PC と Windows10 についてノウハウを持ったパートナーに相談することをお勧めします。

製品の導入検討・購入に関するご相談・お問い合わせ

Dynabook 株式会社

WEB：<https://dynabook.com/business/contact.html>

Windows 10移行をトータルで支援するDynabook株式会社のサービス

Dynabook 株式会社では、PC メーカーとしての長年のノウハウの蓄積と最新情報の掌握があるからこそ提供可能な、安心・安全でお客様の事情に合わせて柔軟に対応できる各種 Windows 10 移行ソリューションを提供しています。御社 IS 部門の負荷を削減しながら、確実な Windows 10 移行を実現するために、ぜひ賢いご利用をご検討ください。

運用管理をハンズオン体験

Windows as a Service 2Days ワークショップ

Windows as a Service 運用管理のポイントを理解し、実際の管理環境をハンズオン体験できる、2 日間のワークショップです。お客様の会社にお伺いして実施し、機材一式もご用意いたします。お客様のシステム、環境に合わせた Windows 10 への導入に必要な準備、最適な Windows as a Service 管理の方法などを検討できます。

リプレースにもアップグレードにも対応

Windows 10アップグレードサービス / リプレース支援サービス

アップグレードサービスでは Microsoft ツールと独自開発ツールにより 1 時間以内にアップグレードが可能です。ユーザーデータを外部媒体にバックアップする必要もありません。ご使用中の PC の環境を新しい Windows 10 PC でも同様に利用できるように移行するリプレース支援サービスもあります。いずれも他社製 PC でもご利用可能です。

HDD全体を暗号化

SmartDE / SmartDE Cloud

HDD のすべての領域を暗号化するソフトウェアです。Windows 10 に対応していることはもちろん、復号せずに機能更新プログラムを適用できるため、Windows 10 のアップデート時に大幅な作業時間の短縮が可能です。Windows 起動前の認証確認や、ファイル / フォルダー単位の暗号化、データ書き込みのポリシー制御など、セキュリティ機能も提供します。

製品の導入検討・購入に関するご相談・お問い合わせ

Dynabook株式会社

WEB : <https://dynabook.com/business/contact.html>

付録: Win10移行チェックリスト

Q1. Windows 10 への移行について現在の状況を選択してください。

- 移行中 計画立案中 未定 その他

Q2. Windows 10 の移行完了時期の目安はいつでしょうか。

- 半年以内 Windows 7 延長サポート終了まで その他

Q3. Windows 10 への移行ではどのような問題を抱えていますか。(いくつでも)

- 人員が足りない 使用しているソフトの対応 移行後の運用管理
 展開方法 その他 特になし

Q4. 業務で使用している PC やタブレットなどの数量・OS 種別・バージョンを把握していますか。

- はい いいえ

Q5. 使用している PC が Windows 10 に対応しているか確認できていますか。

- はい いいえ

Q6. ユーザーや業務ごとに使用しているアプリケーションを把握できていますか。

- はい いいえ

Q7. Windows 10 は Windows as a Service (WaaS) という考え方で設計されています。

この WaaS の概要について理解できていますか。

- よく理解できている ほぼ理解できている あまり理解できていない 知らない

Q8. Windows 10 の更新プログラムは、配信方法やタイミングなどを管理する必要があることを知っていますか。

- 知っている 知らない

Q9. Windows 10 では、年 2 回大型アップデートがあり、都度検証が必要なことを知っていますか。

- 知っている 知らない

Q10. Windows 10 へ移行する場合は、PC のリプレースと現行 PC の OS アップグレードのどちらで対応予定ですか。

- PCのリプレース 現行 PC の OS アップグレード 併用するがリプレースの方が多い
 併用するがアップグレードの方が多い わからない その他

Q11. Windows 10 へのデータ移行方法やアップグレードにかかる時間について把握されていますか。

- はい いいえ

Q12. IT システムが Windows 10 で動作するか検証できていますか。

- すべて検証できている 検証していないものもある
 調査していないのでわからない まったく検証していない

Q13. 導入しているセキュリティソフト・管理ツールなどは Windows 10 に対応していますか。

- すべて対応している 対応していないものもある
 調査していないのでわからない すべて対応していない

Q14. 周辺機器やその他デバイスは Windows 10 に対応していますか。

- すべて対応している 対応していないものもある
 調査していないのでわからない すべて対応していない

Q15. Windows 10 の移行検証に必要な機材をベンダー側で用意し、ワークショップで質疑応答できるサービスを知っていますか。

- はい いいえ

製品の導入検討・購入に関するご相談・お問い合わせ

Dynabook株式会社

WEB : <https://dynabook.com/business/contact.html>

執筆・監修

株式会社プリンシプル